

平成 26 年 1 月 20 日

日本テレビ放送網株式会社

代表取締役社長 大久保好男 様

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国児童養護施設協議会
会長 藤野



児童養護施設で生活する子どもたちへの誤解と偏見、人権侵害を招かないでください
—連続ドラマ「明日、ママがいない」について—

私たち全国児童養護施設協議会は、全国の児童養護施設が参加し、子どもたちの権利擁護や養育の向上をめざした活動を行っています。

標記ドラマは貴社において、児童養護施設を舞台に、全 10 回のシリーズとして制作され、放送予定とされています。第 1 回放送（1 月 15 日）を視聴したところ、児童養護施設で生活する子どもたちの権利を侵害する内容がありました。

フィクションとはいえ、子どもたちをペットショップのペットと同列に扱ったり、暴力や恐怖心で支配・従属させるなどの表現は、子どもたちを傷つけるとともに、職員の仕事に対する意欲を失わせることにつながりかねません。また、地域社会が児童養護施設に対し偏見や誤解をもつことにつながることも懸念します。

とりわけ、私たちは、このドラマが現に入所している子どもたちや、その友人たちにも視聴されるものであり、子どもたちの生活の場である施設がペットショップのように描かれ、虐待等で心に深い傷を負って入所している子どもたちの人間の尊厳を更に冒すものとなることを危惧し、強く抗議します。

今日、児童養護施設には、被虐待経験など不適切な養育を受け、愛着の問題や心の傷を抱えている子ども、さらに障害や疾患のある子どもが増えてきており、社会的養護関係施設等における児童数は約 4 万 7 千人となっています。社会的養護、児童養護の現場では、約 2 万 5 千人の職員(約 4 千世帯の里親を含まず)が、日々子どもたちを保護し、回復に向けた養育や社会への自立のための努力をしています。

また、今後の社会的養護の改善の方向として、このドラマの舞台と思われる「地域小規模児童養護施設」や、本体施設の「小規模グループケア」を普及させ、家庭的養護促進を図るとともに、里親制度の促進を図り、保護が必要な子どもたちの人権を護り人間の尊厳を培う場とすべく、努力しています。

第 1 回放送を見る限り、このドラマはこうした動きに真っ向から対立するものとなっています。子どもたちに必要なことは、公的な児童福祉施策の充実はもとより、多くの方々に社会的養護、児童養護の子どもたちの実情を、正しく理解いただくことだと考えています。とりわけ、社会的影響力の大きい報道や放送などの関係者の方々には、今日の児童養護施設や里親などの実情を踏まえた対応をお願いしたいと考えています。

今後の企画・制作において、子どもたちや私たちの取り組みについて貴社のご理解をいただき、上記内容に関して具体的改善策を図り、誠意ある対応をとられるよう要請します。